

単元名	「竹取物語」と他の古典作品を比較し、特徴をつかむ ～作品の魅力を紹介し合い、みんなで古典リストを作ろう～
単元の目標	古典作品を紹介するポスターセッションを通して、「竹取物語」の魅力に気付いたり、古典には様々な種類の作品があることを知ったりすることができる。

■ 本時の展開 (1/10) 見通し①

- (1) ねらい 「いろは歌」の音読や「七夕に思う」の学習を通して、様々な古典作品が読み継がれてきたことを知るとともに、単元全体の学習についての見通しをもつ。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート①
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 単元のねらいと学習内容を知る。	3分	・小学校で学習してきた古典作品を思い出すとともに、これから「竹取物語」を中心とした古典を学習していくことを伝え、今後の学習に対する見通しをもたせる。
【学習課題】 古い時代から現代まで、様々な古典が読み継がれてきたことを知ろう。		
2 「いろは歌」を音読する。 「いろは歌」のリズムを味わいながら、楽しく音読しましょう。	10分	・「いろは歌」について知っていることを発表させる。 ・七五調の形式や、仮名四十七文字を一度も重複することなく、意味ある歌としていることなどに気付かせる。 ・おおまかな意味をとらえ、リズム良く音読させる。
3 「七夕に思う」を音読し、七夕に寄せる人々の思いを時代ごとにとらえる。 様々な古典作品に込められた「七夕」への思いを想像しましょう。 ・時代によって、七夕に込めた思いも違うんだな。 ・昔の人も今の自分たちと同じように七夕を楽しんでいたなんて驚きだ。	30分	・当時の人々の様子や思いを想像させながら音読させる。 ・各時代の人々の思いを想像し、それをまとめられるようなワークシートを作成する。 ・想像させたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆「万葉集」 当時の人々が天の川を見ながら何を思っていたか。 ◆「徒然草」 当時の人々が七夕の季節をどう感じていたか。 ◆「芭蕉の句」 人々が短冊に書き付けたであろう願い事は何か。 ◎感想が書けない生徒には、当時の人々と自分との共通点を見付けるよう助言する。 ・書いた感想を、ペアやグループで交流させる。 ◇「いろは歌」や七夕に関する記述を通して、古典の世界を身近に感じ、関心をもっている。 (観察・ワークシート) 【読】
4 今後の学習について見通しをもつとともに、ポスターセッションのテーマを確認する。 テーマ：いろいろな古典を徹底比較！ ～作品の魅力を紹介し合い、みんなで古典リストを作ろう～	7分	・小学校で触ってきた古典作品を出し合い、それについての感想を交流させる。 ・古い時代から現在まで、様々な古典作品が読み継がれてきたことを確認した上で、それぞれの作品の魅力をポスターセッションで紹介し合うという課題とテーマ、作品を読み深める際の目標を提示する。 目標 古典リストを作成することで、様々な種類の作品があることを知ること。そして「竹取物語」が千年以上読み継がれてきた理由を考えること。

■ 本時の展開（2／10） **見通し1の②**

- (1) ねらい 「竹取物語」という作品について知る。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート②③
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は「竹取物語」の背景知識と歴史的仮名遣いについて学習することを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「竹取物語」という作品について知ろう。		
2 「竹取物語」のあらすじをつかみ、背景知識について知る。 「竹取物語」がどんな物語なのか、あらすじをつかみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・かぐや姫のお話は知っている。同じお話なのかな。 ・千年以上も前に書かれた物語なんてすごいな。 ・小学校の時に、授業で勉強したな。 	20 分	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話「かぐや姫」を思い出させ、昔話との共通点や相違点を確認した上で、「竹取物語」と同じ作品であることを説明する。 ・全体のあらすじを大まかにつかむために、教科書の図版や資料集などの視覚に訴える資料を活用し、当時の様子を想像しやすくする。 ・押さえたい構成 <ul style="list-style-type: none"> 1 かぐや姫の誕生と成長 2 貴公子たちの求婚と失敗 3 かぐや姫の昇天 4 帝が富士山で燃やした手紙と薬 ・「竹取物語」は、千年以上も前に仮名で書かれた現存する最古の物語であること、紫式部が「源氏物語」の中で「物語の出で来はじめの祖」と記していることなどを知らせる。 ・冒頭部分は、小学校でも扱っているので、その時の学習を思い出しながら音読させる。
3 歴史的仮名遣いのきまりについて知る。 冒頭部分の古文から、現代とは違う仮名遣いをしているものや、今では見られない語などを抜き出しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・千年の間に、言葉もずいぶん変化しているんだな。 ・古文をすらすら読めるように、仮名遣いのきまりをしっかり覚えよう。 	25 分	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭部分はすでに内容が理解できていることを考慮し、仮名遣いの違いや文末の言葉の違い、現代では使われなくなった言葉や、違う意味で用いられている言葉など、古語と現代語との違いに気付かせるために用いる。 ・歴史的仮名遣いのきまりについては、ワークシートでいつでも振り返って確認できるようにしておく。 ◎歴史的仮名遣いに対する理解が不十分な生徒には、どのように音読していたかを思い出させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ◇古文を参考に歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、言葉遣いや古語の意味を理解している。 (観察・ワークシート)【言】 </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、「竹取物語」を音読していくことを知らせる。

■ 本時の展開（3／10） 見通し①の③

(1) ねらい 当時の様子を想像しながら「蓬莱の玉の枝」を音読する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート④

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は「蓬莱の玉の枝」を様々な方法で音読することを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] 「蓬莱の玉の枝」を、歴史的仮名遣いに気を付けて正しく音読しよう。</p> <p>歴史的仮名遣いに注意しながら、何度も「蓬莱の玉の枝」を音読しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> とてもリズムの良い文章だな。 大きな声を出して読もう。 音読しながら、仮名遣いも覚えられるようにしよう。 	30 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時で学習した歴史的仮名遣いに注目させるとともに、現代の文章と古典の文章とで異なる言葉があることにも目を向けさせる。 古文特有のリズムを味わいながら音読するよう助言する。 楽しみながら音読できるように、読ませ方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ①追い読み → ②交代読み → ③二人読み → ④グループ読み → ⑤たけのこ読み → ⑥スピード読み 暗唱できそうな生徒には、各文頭のみ記したワークシートを用意し、積極的に挑戦させる。 <p>◎滑らかに音読できない生徒には、二人読みやグループ読みの際に友達同士で確認するよう伝える。</p>
<p>3 ミニ音読発表会を行い、お互いの音読を聞き合う。</p>	15 分	<ul style="list-style-type: none"> リズムを意識して読めた生徒を賞賛し、読む際の参考にさせる。 暗唱できなくても、歴史的仮名遣いなどに注意しながら読むことを重視し、正確に音読させるようする。 友達同士で相互評価させる。 全体の前で発表させる。 <p>◇文語のきまりや仮名遣いに注意したり、作品の特徴を生かしたりしながら音読している。 (観察・発表)【言】</p>
<p>4 次時の予告を聞く。</p>	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、かぐや姫に求婚した五人の貴公子の冒険談を読み、人物像をとらえていくことを知らせる。

■ 本時の展開（4／10） 見通し2の①

- (1) ねらい 五人の求婚者のエピソードを比較しながら読み、それぞれの人物像と話の面白さをとらえる。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑤⑥
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は五人の求婚者のエピソードを中心に、「竹取物語」を読み進めていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 資料集や教科書の注釈を用い、かぐや姫に求婚した五人の貴公子と与えられた難題を確認する。 <p>[学習課題] 五人の貴公子の求婚のエピソードから、それぞれの人物像をとらえよう。</p>
2 くらもちの皇子の架空の冒険談について読み、人物像をとらえる。 くらもちの皇子の冒険談から、手の込んだ嘘を見つけましょう。 ・かぐや姫も信じてしまうなんて、嘘の上手な人だな。 ・嘘についてまでかぐや姫と結婚したかった気持ちは分かるな。	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 現代語訳を活用しながら内容を確認し、かぐや姫をも信じ込ませたくらもちの皇子の作り話の巧みさを中心に考えさせる。 かぐや姫を信じさせるための巧みな嘘を見付けるよう投げかけ、嘘についてまでかぐや姫と結婚したかった思いをとらえさせる。 計略の失敗のいきさつを解説文から確認し、くらもちの皇子の人物像を考えさせる。 自分に引き寄せて考えられるよう、「自分だったらどうするか」という視点から、考えをもたせるようにする。
3 他の四人のエピソードを基にそれぞれの人物の思いや行動について考え、話の面白さをとらえる。 他の四人の貴公子の冒険談も読み、それぞれの人物の思いや行動をとらえ、自分と比較してみましょう。 ・人物によって、様々な思いがあったんだな。 ・自分だったら、やっぱり同じような行動を取るかもしれない。 ・なんだか考えることは、今の自分たちと変わらないな。	25 分	<ul style="list-style-type: none"> 教科書には載っていないエピソードであることを考慮し、資料集のあらすじを中心にワークシートにもまとめ、内容をつかめるようにする。 石作の皇子は「未練がましい男」、あべのみうしは「だまされやすいお人好し男」、大伴のみゆきは「逆上しやすい男」、いそのかみのまろたりは「気の毒な男」など、その人物の特徴を分かりやすく示し、想像しやすくする。 映像資料を活用することで。考える時間を確保できるようにする。 くらもちの皇子とも比較しながら、それぞれの人物像をとらえるよう助言する。 自分に引き寄せて考えられるよう、「自分だったらどうするか」という視点から、考えをもたせるようにする。 <p>◎考えがもてない生徒には、自分との共通点を見つけるよう助言する。</p> <p>◇古文に表れているものの見方や考え方を基に、登場人物について自分の考えをもっている。 (ワークシート)【読】</p>
4 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、登場人物たちの思いを考え、現代に通じるところを探していくことを知らせる。

■ 本時の展開（5／10） 見通し2の②

- (1) ねらい かぐや姫や翁たち、帝の行動から、登場人物それぞれの思いを考え、現代に通じるところを探して交流し合う。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑦
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は解説文と本文からかぐや姫、翁たち、帝の心情を読み取り、そこから考えた現代と通じるところを友達と交流することを知らせ、学習に対する見通しをもたせる。 <p>[学習課題] 登場人物の思いを考え、現代に通じるところを友達と交流しよう。</p>
2 かぐや姫の告白、翁たちの嘆き、帝の行動などから、それぞれの人物の思いをとらえる。 「竹取物語」に登場する人物の思いや行動について想像してみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> かぐや姫と別れる翁たちは、どんなにつらかったんだろう。 帝に薬を贈るなんて、かぐや姫はどんな気持ちだったのかな。 	15 分	<ul style="list-style-type: none"> かぐや姫と翁たちの別れの悲しみや、帝の行動の意味などを想像させる。 考えさせたい事柄 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆かぐや姫について 月を見て嘆き悲しむ理由、翁たちへの告白、帝に贈った不死の薬</p> <p>◆翁たちについて 親としてかぐや姫の嘆きを心配する姿、かぐや姫との別れの悲しみ</p> <p>◆帝について 二千人の兵士で翁の家を守らせたこと、不死の薬を飲まず月に最も近い富士山で燃やしたこと</p> </div>
3 五人の貴公子のエピソードやかぐや姫の昇天の場面を基に、現代にも通じる部分がないか考える。 現代の自分たちと共通する登場人物の思いについてまとめ、それを友達と交流しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 昔の人たちも、今の自分たちと同じような気持ちをもっていたんだな。 〇〇さんの気付きはすごいな。参考にしよう。 	30 分	<ul style="list-style-type: none"> 喜び、悲しみ、怒り、憎しみ、欲望など、現代に生きる自分たちと共通する思いはないか、考えさせる。 自分の考えをまとめる際は、根拠を明確にして書くよう助言する。 <p>根拠 … 人物の行動、言葉、心情を表す叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までに記入したワークシートを基に、自分との共通点や相違点だけでなく、自分のこれまでの経験や知識と関連付けて書くようにさせる。 交流する際も、根拠を明確にしながら話すよう助言する。 小学校で触ってきた既習の古典作品とも比較するよう指示する。 <p>◎交流は少人数のグループで行い、自分の考えを発表しやすい雰囲気を作る。</p> <p>◇自分の経験や知識と関連付けて考えをまとめ、交流して広げている。（ワークシート・観察）【読】</p>
4 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、ポスターセッションについて理解するとともに、その準備を進めていくことを知らせる。

■ 本時の展開（6／10） 見通し3の①

- (1) ねらい ポスターセッションの意義と方法を理解するとともに、グループを作ってポスターセッションで紹介する事柄について話し合う。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑧⑨
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3分	・本時はポスターセッションの方法を理解するとともに、グループごとに準備をしていくことを知らせ、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] ポスターセッションに向けて、グループで話し合おう。		
2 ポスターセッションの具体的なイメージをもつ。 ポスターセッションの意義と方法を確認しましょう。 ・ポスターセッションで交流するのは楽しそうだな。 ・みんなが聞いてくれるようなポスターを作りたいな。	10分	・ポスターセッションの特徴として、「調べたことをポスターにまとめ、それを基に説明や交流を行う発表会であること」、「質疑応答などを行いながら理解を深めること」の2点を確認する。 ・ポスターはグループごとに作成すること、前半と後半で発表するグループを分け、聞き手は興味のあるポスターの前に集まって聞くことなどを確認する。 ・発表者と聞き手の距離が近いため、聞き手の反応に注意しながら分かりやすく話す力が求められることを押さえよう。
3 グループに分かれ、紹介する作品を選ぶ。 小学校で出会ってきた古典作品の中から、紹介したい作品を選びましょう。	15分	・グループは、作業分担のしやすい4人編制とする。 ・このポスターセッションは、古典作品の特徴を紹介し合い、それらと比較しながら「竹取物語」の魅力を探っていくことが目的であることを確認する。 ・小学校で既習の古典作品の中から、紹介したい作品を選びようにさせる。 【既習作品】 百人一首 俳句 故事成語 枕草子 平家物語 論語 徒然草 狂言 落語 など
4 選んだ作品について、どんな情報を集めれば良いか、どんなポスターを作成するかについて話し合う。 グループで、ポスター作成のための計画を立てましょう。 ・みんなが知りたい情報は何か。 ・他の作品にも、現代と通じるところはあるのだろうか。	20分	・どんな工夫をすれば、見る人の興味を引き、分かりやすいポスターになるか考えさせる。 ・ポスターに書く内容については、共通事項を示し、それにグループごとの工夫を加えるよう助言する。 【共通事項】 ジャンル（そのジャンルの特徴） 作者 時代 あらすじや内容 現代にも通じるところ 「竹取物語」との比較 ・現代にも通じるところについては、小学校で学んだときの感想や資料集などから読み取れる範囲で良いことを伝える。 ◎話合いに参加できない生徒がいることを考慮し、司会を交代で行うよう指示する。 ◇テーマについて具体的に考え、交流を通して必要な情報を検討している。 (ワークシート・観察) 【関】
5 次時の予告を聞く。	2分	・次時は、必要な情報を整理し、ポスターに分かりやすくまとめていくことを知らせる。

■ 本時の展開（7／10） 見通し③の②

(1) ねらい グループで話し合いながら、聞き手を意識した効果的なポスターを作成する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑩⑪ 模造紙 マジックペン

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は、選んだ古典作品を紹介するポスターを作成するなど、ポスターセッションに向けて準備を進めることを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 聞き手を意識した、効果的なポスターを作成しよう。		
2 グループごとに、必要な情報を選択する。 話し合いながら、ポスターに載せる情報を選びましょう。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時に確認した共通事項を、再度確認する。 何を中心に、どのような順番で説明するか、どのように提示すれば分かりやすいかを考えさせる。 「竹取物語」と比較し、感じしたことなども発表するよう伝える。 発表では誰がどの部分を担当するのか、役割分担を相談させる。
3 聴き手を意識したものになるようキャッチコピーとレイアウトについて話し合い、グループで協力しながらポスターを作成する。 集めた情報を整理しながら、ポスターに分かりやすくまとめましょう。 • みんなの意見の良いところを探しながら話し合おう。 • みんなが興味をもちそうなキャッチコピーを考えよう。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> ポスターの見出しどなるキャッチコピーは、説明を聞いてみたいと思うような聞き手の心をつかむ言葉を使うなどの工夫をさせる。 クイズ形式の発表などを取り入れても良いことを伝える。 レイアウトは、見やすさと分かりやすさを重視し、文字の大きさや分量、図の配置を考えながら下書きを行い、色の使い方も工夫させる。 グループ内での作業分担を明確に行わせ、全員が作業に参加できるようにする。 発表メモは家庭学習とし、自分の発表にかかる原稿を考えさせる。 <p>◎グループ全員でポスターを作成することを確認し、各自が必ず何らかの内容を担当するよう指示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: right;"> ◇収集した情報を整理し、キャッチコピーや図などを効果的に用いて、分かりやすくポスターを作成している。 (観察・ポスター)【書】 </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時も、続けてポスターの作成を行い、その後発表練習をしていくことを知らせる。

■ 本時の展開（8／10） 見通し③の③

- (1) ねらい グループで協力し合ってポスターを仕上げ、発表のリハーサルを行う。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑪ 模造紙 マジックペン ストップウォッチ
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は、前時に引き続きポスターを作成するとともに、発表練習などポスターセッションに向けて準備を進めることを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 実際のポスターセッションをイメージしながら、発表準備を行おう。		
2 グループごとに、ポスターを仕上げる。	15 分	・前時の確認事項を思い出させ、協力し合ってポスターを完成させるよう指示する。
3 ポスターセッションの流れを確認する。	15 分	・ポスターセッションの流れと発表の持ち時間を確認し、発表場所や前半に発表するグループと後半に発表するグループ、発表内容を予告する順番などを決める。 ・発表の際、ポスターを指し示すタイミングや時間配分をどうするのかなどについて考えさせる。
4 グループごとに、リハーサルを行う。 グループ内でお互いに聞き合いながら、発表練習を行いましょう。 ・聞き手を意識した分かりやすい発表になっているかな。 ・声の大きさや話す速度はどうだろう。 ・いい発表になるよう、お互いにアドバイスできるようにしよう。	15 分	・家庭学習で作成してきた発表メモを読むのではなく、聞き手の反応を見ながら話せるように練習させる。 ・グループで互いに聞き手の立場になり、発表のための話し方や声量、視線、ポスターの示し方などが分かりやすくなっているかを検討させる。 ◎発表の苦手な生徒には、個別指導を行い、自信をもって発表できるように支援する。 ・想定される質問については、答えを準備しておくよう指示する。 ・必要があれば、休み時間や放課後などの時間を活用させる。 ◇聞き手を意識して、分かりやすい発表の流れを工夫し、リハーサルを行っている。 (観察) 【話・聞】
5 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、実際にポスターセッションを行うことを知らせる。

■ 本時の展開（9／10） 見通し3の④

- (1) ねらい ポスターセッションを行い、様々な古典作品について交流する。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑫ ポスターセッションに必要な諸道具
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	2 分	・本時は、実際にポスターセッションを行って古典作品を紹介し合うことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。

[学習課題] 小学校で出会った古典作品について、ポスターセッションで交流しよう。

2 ポスターセッションの注意点を確認する。 有意義な交流になるよう、自分の役割をもう一度確認しましょう。	5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するときと聞くときに気を付けることを確認する。・聞き手は発表の要点や疑問、感想などをメモに取り、発表の後に質問して意見を交流できるよう、心構えをもたせておく。 ・発表の仕方やポスターのまとめ方などについても、気付いたことを書き留めておくよう指示する。 ・ポスターセッションでの交流を基に、様々な古典作品と「竹取物語」を比較して、「竹取物語」が長く読み継がれている理由を考えいくことを確認し、発表を聞く際の視点にさせる。
3 ポスターセッションを行う。 ポスターセッションの流れ (前半1回目の例) <ul style="list-style-type: none"> ①(予告) 発表内容の紹介 (30秒) ②(移動) 聞き手は聞きたいグループのポスターの前に移動 (1分) ③(発表) 1回目の発表 (6分) ④(交流) 質疑応答 (4分) ⑤(移動) 聴き手は別のグループのポスターの前に移動 (1分) 	4 1 分	<ul style="list-style-type: none"> ・進行計画の時間配分に沿って、ポスターセッションを行う。発表時間を前半・後半に分け、それぞれ2回ずつ発表させる。 ・[予告] の際は、多くの人に聞きに来てもらえるように、キャッチコピーなどを用いて発表内容をアピールするよう助言する。 ・[発表] の際は、ポスターの貼り方や発表者の立つ位置など、説明しやすい場所を工夫させる。また、ポスターやメモばかり見ず、聞き手の反応を見ながら説明するよう助言する。 ・[交流] の際は、聞き手にはメモを基に質問や感想を具体的に述べるよう、発表者には全体に向かって説明するよう指示する。 <p>◎メモを取ることが苦手な生徒には、作品の特徴について聞くなど、視点を絞った聞き取りをさせる。</p> <p>◇発表の構成を工夫し、聞き手の反応に注意しながら話したり、意欲的に発表を聞き、疑問点や感想を述べたりしている。 (観察・発表) 【話・聞】</p>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、ポスターセッションを振り返り、「竹取物語」の学習のまとめをしていくことを知らせる。

■ 本時の展開（10／10） 見通し3の⑤

- (1) ねらい ポスターセッションを振り返り、古典リストを作成するとともに、再認識した「竹取物語」の魅力について自分の考えをまとめる。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑬⑭ 模造紙 マジックペン
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3分	<ul style="list-style-type: none"> 本時はポスターセッションを振り返り、改めて気付いた「竹取物語」の魅力を文章に書き表すことで、学習のまとめをしていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] ポスターセッションのまとめを行い、「竹取物語」が読み継がれてきた理由を考えよう。</p>		
2 ポスターセッションでの発表について、各自やグループで自己評価する。 ポスターセッションはどうでしたか。振り返ってみましょう。 ・いろいろな作品の特徴を知ることができたな。 ・〇〇さんの発表の仕方は分かりやすかったな。	7分	<ul style="list-style-type: none"> 最初に、発表者と聞き手の立場それぞれについて評価させる。各自で発表を振り返り気付いたことや友達の発表から学んだことなどをワークシートに書かせる。 次に、グループの中で、自分たちの発表について、お互いに気付いた点、良かった点や改善点などを出し合い、交流させる。 評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> ●発表の内容や、ポスターのまとめ方について ●発表の仕方について ●発表の聞き方や質疑応答の仕方について
3 ポスターセッションを振り返り、全員で「古典リスト」を作る。	10分	<ul style="list-style-type: none"> 全員で話し合いながら、クラスで一枚の模造紙にリストを作成し、教室に掲示できるようにする。リスト作成にかかる話し合いは、教師主導で行う。 作品のジャンル、作者、時代を中心に分類・整理する。 小学校で出会ってきた作品や「竹取物語」だけでなく、今後中学校で出会う作品なども紹介する。
4 「竹取物語」がなぜ現代まで読み継がれてきたかについて、自分の考えをまとめる。 ポスターセッションを通して、古典には様々な作品があることが分かりました。それらと比較することで改めて気付いた「竹取物語」の魅力を文章にまとめてみましょう。	25分	<ul style="list-style-type: none"> 古典リストを参考に、他の作品と「竹取物語」を比較し、「竹取物語」の魅力は何かを考えさせる。 「竹取物語」の登場人物の行動や心情が現代人と共通していることに目を向けさせ、現代に通じる面白さに気付かせる。 <p>◎書く内容が絞り込めない生徒には、ポスターセッション前と比べて、新たに気付いたことを加えながらまとめるよう助言する。</p> <p>◇現代を生きる自分の知識や経験、思いと重ねながら、作品を通じて考えたことを書いている。 (自己評価カード・ワークシート)【読】</p>
5 教師の話を聞く。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 古典の楽しさや作品の奥深さを伝え、中学校での古典学習への興味・関心や意欲を喚起できるようにする。

単元名	登場人物の生き様を通して、「平家物語」の世界を詠み深める ～自分のイチ押し登場人物について語ろう～
単元の目標	作品から読み取ったことを基に行うパネルディスカッションを通して、「平家物語」を読み深めることができる。

■ 本時の展開 (1/8) 見通し①

- (1) ねらい 「平家物語」の冒頭部分「祇園精舎」を読み、作品について知るとともに、単元全体の学習についての見通しをもつ。
 (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート① プrezentation資料
 (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 単元のねらいと学習内容を知る。	4分	<ul style="list-style-type: none"> これから「平家物語」という古典作品を読んでいくことと、それを通して得た自分の思いを交流し合うことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 「平家物語」について知っていることを発表させる。
[学習課題] 「祇園精舎」の音読を通して「平家物語」について知ろう。		
2 「平家物語」について知る。 ワークシートの空欄を埋めながら、「平家物語」という作品について見ていきましょう。	12分	<ul style="list-style-type: none"> 「平家物語」は、源平の合戦の様子や平家の滅亡を琵琶法師が語り伝えた物語であること、「軍記物語」というジャンルであることを押さえ、源氏や平家の人物が多く描かれていることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 内容…平家の栄華 壇の浦の戦いでの滅亡 など 人物…平清盛 源頼朝 源義経 弁慶 木曾義仲 那須与一 など </div> <ul style="list-style-type: none"> 「平家物語」は「平曲」という語り物であるため、音楽的な効果のある文体であることを確認するとともに、映像や音楽などの資料を用いて生徒の興味を喚起する。
3 「祇園精舎」を音読する。 15分間で暗唱できるよう、何度も「祇園精舎」を読みましょう。	22分	<ul style="list-style-type: none"> 1学年で学習した「竹取物語」の音読の注意点を思い出させ、歴史的仮名遣いや文の区切り、古典特有の言い回しなどに注意しながら音読することを確認する。 「平家物語」独特の文章のリズムや対句表現なども音読の中で確認する。 楽しみながら音読・暗唱できるように、読ませ方を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①追い読み→②交代読み→③二人読み → ④グループ読み→⑤たけのこ読み→⑥スピード読み </div> <p>◎滑らかに音読できない生徒には、五音と七音のリズムに気を付けるよう助言する。</p>
4 ミニ音読発表会を行い、お互いの音読を聞き合う。	8分	<ul style="list-style-type: none"> 暗唱できる生徒には、積極的に発表させるようにする。 リズムを意識して読めた生徒を賞賛し、読む際の参考にさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◇文語のきまりや仮名遣いに注意したり、作品の特徴を生かしたりしながら音読している。 (観察・発表)【言】 </div>
5 今後の学習について見通しをもつとともに、パネルディスカッションのテーマを確認する。 テーマ：平家物語の人々が大切にしていたものは？ ～自分のイチ押し登場人物について語ろう～ ・それぞれの人物について、しっかり読み取っていきたいな。	4分	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に学習したプレゼンテーションを思い出させ、それが相手の理解や同意を得るために説明・提案であることに對し、パネルディスカッションは意見を交流し、深める話合いであることを押さえる。 パネルディスカッションは作品を読み深めるための手立てであることを確認し、作品を読み深める際の目標を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 目標 作品の中から心に残った人物を一人見つけること。 そしてその人物を通して平家物語について考えること。 </div>

■ 本時の展開（2／8） 見通し1の②

- (1) ねらい 登場人物の様子を想像しながら「扇の的」を音読し、自分なりの感想をもつ。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート② プレゼンテーション資料
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は「平家物語」の中の「扇の的」という場面を読むことと、前時と同じように音読することを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> [学習課題] 「扇の的」を、登場人物の様子を想像しながら音読しよう。 </div>
2 「扇の的」のあらすじをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0; margin-bottom: 10px;"> 「扇の的」は、物語全体のどの場面にあたるでしょう。あらすじをつかみましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 屋島の戦いで、大将は義経だな。 	10 分	<ul style="list-style-type: none"> 屋島の戦いが舞台であることや、それまでの源平の合戦の経緯などを説明する。 現代語訳やビジュアル資料を活用することで、当時の様子を想像しやすくする。 今後、登場人物に焦点を当てた学習を開拓するために、「扇の的」での主な登場人物、「源義経、那須与一、黒革をどしの鎧の男」について押さえる。
3 「扇の的」を音読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0; margin-bottom: 10px;"> 「祇園精舎」と同じように、何度も読んでみましょう。今回は登場人物たちの様子を想像しながら音読しましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> この場面も、とてもリズムが良いな。 矢が飛んでいく場面は、様子が想像できるなあ。 与一は弓を射るとき、どんな気持ちだったんだろう。 男は、なぜ舞を舞ったのかな。 義経という大将は、どんな人だったんだろう。 	25 分	<ul style="list-style-type: none"> 「平家物語」の文体の特徴、特に七五調や対句、擬音語や漢語的な表現を確認し、それを音読に生かすよう助言する。 「登場人物の行動に着目しながら読む」「描かれている情景を想像しながら読む」など、音読の際のポイントを提示する。 <p>◎楽しみながら音読・暗唱できるように、前時同様読み方を工夫する。つまずいている生徒には、二人読みでチェックさせるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ①交代読み → ②二人読み → ③グループ読み → ④スピード読み </div> <ul style="list-style-type: none"> 暗唱までチャレンジできるよう、音読練習は場面の情景が想像しやすい前半場面（与一が弓を射るところまで、P 138～140）とする。 最後に再度ペアで読み合い、相互評価させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇「平家物語」のもつ独特のリズムや、表現の効果などを意識しながら音読している。 (観察・ワークシート)【言】 </div>
4 登場人物に対する自分なりの感想をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0; margin-bottom: 10px;"> 3人の人物に対する感想を「○○は△△な人物である」という一文で表してみましょう。 </div>	10 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時に行う登場人物の心情理解への準備として、那須与一、黒革をどしの鎧の男、源義経の3人についての感想をもたせる。 3人の登場人物についての感想を一文でワークシートに記入させる。その際は、そう思う根拠も記すよう伝える。 ペアで交流し合うようにする。
5 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、「扇の的」をさらに読み深め、登場人物の心情を考えていくことを知らせる。

■ 本時の展開（3／8） 見通し2の①

(1) ねらい 「扇の的」の内容を読み深め、登場人物の心情を理解する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート③

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は「扇の的」について内容をとらえ読んでいくとともに、登場人物の心情を理解していくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「扇の的」の3人の登場人物について、行動の意味や気持ちを考えよう。		
2 「扇の的」の登場人物の行動やセリフの意味を考え、人物の心情について理解する。 「扇の的」にはどんな人物が出てきましたか。その人物たちの行動の意味や、その時の気持ちを考えてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・与一の失敗は、源氏全体の恥となってしまう。死を覚悟するのも当然だな。 ・与一はなぜ、船の上の男を射倒したのだろう。命令に背いたらどうなるのかな。 ・男は、与一の腕に感心して舞を舞ったのだろう。悪いことをしていないのに殺されてしまうなんてかわいそうだ。 ・義経が、男を射させた理由がよく分からないな。ここが戦場だからだろうか。 ・危険を承知で弓を拾うほど、義経にとって大切なものは何なのだろう。 	45 分	<ul style="list-style-type: none"> ・那須与一、黒革をどしの鎧の男、源義経の3人に焦点を当てて読んでいくことを確認する。 ・考えさせたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆那須与一について 神々に祈る場面、死の覚悟、大将の命令は絶対であるという武士の宿命 ◆黒革をどしの鎧の男について 舞を舞った理由、源平双方の評価、「あ、射たり」「情けなし」の言葉の意味 ◆源義経について 黒革をどしの鎧の男を射させた意味、弓を拾った義経の武士としての名誉 ・常に自分に引き寄せて考えられるよう、自分の考えをもつ際のポイントとして、「共感できる点」「疑問に思う点」を示し、そこから「自分だったらどうするか」という考えをもたせる。 ◎考えがもてない生徒には、自分の経験と最も照らし合わせやすい与一を中心に考えるよう助言する。 ・矢が扇を射るまでの描写から、その場の緊迫した様子をとらえられるようにする。 ・源氏と平家の戦の中での出来事であることを押さえるために、対句表現に着目させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">◇描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて古文の内容を理解している。</div> <div style="text-align: right; margin-top: -10px;">(ワークシート)【読】</div>
3 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、「平家物語」の他の場面「敦盛の最期」を読み、別の登場人物の心情を考えていくことを知らせる。

■ 本時の展開（4／8） 見通し2の②

- (1) ねらい 「扇の的」と比較しながら「敦盛の最期」を読み、人物の心情を考えるとともに、二つの場面から最も心に残った人物を一人選び出す。
- (2) 準 備 教科書 資料集 「敦盛の最期」本文（ワークシート④） ワークシート⑤⑥
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。 「扇の的」と比較しながら「敦盛の最期」の場面を読んでみましょう。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は「扇の的」と比較しながら「敦盛の最期」という別の場面を読み、前時と同じように心情を理解していくことと、二つの場面の登場人物から一人を選んでいくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 「敦盛の最期」は、特徴的な人物が登場することや、昔から様々な芸能の題材として取り上げられていたことを紹介する。 <p>[学習課題] 「敦盛の最期」の2人の登場人物について、行動の意味や気持ちを考えよう。</p>
2 「敦盛の最期」のあらすじをつかむ。 ・敦盛は、自分たちとはあまり変わらない若者だったんだな。 ・この場面は、「扇の的」とはまた違う感じがするな。	10 分	<ul style="list-style-type: none"> 原文は教師の範読にとどめ、資料集や現代語訳を活用しながら内容を確認する。 熊谷次郎直実と平敦盛の2人に焦点を当てて読んでいくことを確認する。
3 「敦盛の最期」の登場人物の行動やセリフの意味を考え、人物の心情について理解する。 「敦盛の最期」にはどんな人物が出てきましたか。その人物たちの行動の意味や、その時の気持ちを考えてみましょう。 ・直実は、なぜ敦盛を助けようと思ったのだろう。自分の息子を思い出したのかな。 ・敦盛は、なぜ助けを拒んだのかな。プライドが許さなかったのだろうか。	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 考えさせたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆平敦盛について 「早く首を取れ」と言った理由 ◆熊谷次郎直実について 敦盛を助けたいと思った理由、出家を志した理由 常に自分に引き寄せて考えられるよう、自分の考えをもつ際のポイントとして、「共感できる点」「疑問に思う点」を示し、そこから「自分だったらどうするか」という考えをもたせる。 「扇の的」の義経や与一との相違点もとらえさせる。
4 最も心に残った人物を一人選んで自分の考えをもつ。 二つの場面の登場人物の中で、自分のイチ押し登場人物は誰ですか。押したい理由も含めて考えてみましょう。 ・人物によって、様々な思いがあったんだな。 ・それぞれの人物が大切にしていたものは違うようだ。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ人物を基にパネルディスカッションを行うことを再度確認し、二つの場面の登場人物から選ぶよう伝える。 「その人物を選んだ理由」「その人物が大切にしているものとそれに対する自分の考え」を明確にもたせ、それをワークシートに記入させる。 ◎記入ができない生徒には、No.3・5のワークシートを確認させ、その記述を基にするよう助言する。 <p>◇古文に表れているものの見方や考え方を基に、登場人物について自分の考えをもっている。 (ワークシート)【読】</p>
5 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、本時のワークシートを基に自分の考えをまとめるとともに、パネルディスカッションの準備をしていくことを知らせる。

■ 本時の展開（5／8） 見通し3の①

- (1) ねらい パネルディスカッションの意義と方法を理解するとともに、前時に選んだ人物について自分の考えをまとめ、グループを作って交流し合う。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑦⑧
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時はパネルディスカッションの方法を理解するとともに、前時に選んだ人物についてのメモを基に、自分の考えをまとめ交流することを知らせ、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] パネルディスカッションのグループを作り、自分の考えを友達と交流しよう。		
2 パネルディスカッションの具体的なイメージをもつ。 パネルディスカッションの意義と方法を確認しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションで交流するのは楽しそうだな。 答えを一つにする必要はないのか。いろんな考えに気付くことが大切なんだな。 フロアの重要性が分かった。話合いを盛り上げられるように頑張ろう。 	10 分	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションの特徴として、「一つのテーマについて複数の立場の者が意見を述べ合い、参加者全員で理解を深めていく」とする形式であること」、「見方や考え方の広がりや深まりを期待する話し合いであること」の2点を確認する。 結論を求めるることはせず、お互いの立場を認め合うことが重要であることを押さえる。 パネリスト、司会、フロアの役割を確認する。その際、特にフロアの重要性を強調しておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆パネリスト テーマについてグループの代表として意見を述べる。異なる立場のパネリストと討論を行ったり、フロアから質問や反論があった場合はそれに答えたりする。</p> <p>◆司会 全体の進行を行う。パネリスト同士の討論を活性化させたり、フロアに積極的な発言を促したりする。</p> <p>◆フロア パネリスト同士の討論を聞き終わったら、全体討論に加わる。自分のグループの意見について補足したり、他のグループのパネリストに質問や反論をしたりする。</p> </div>
3 選んだ人物に対する自分の考えをまとめめる。 選んだ人物とその根拠を200字程度でまとめてみましょう。	20 分	<ul style="list-style-type: none"> その人物を選んだ根拠を明確にして書くよう助言する。 根拠 … 人物の行動、言葉、心情を表す叙述 前時に記入したワークシートを基に、自分との共通点や相違点だけでなく、自分のこれまでの経験や知識と関連付けて書くようにさせる。
4 同じ人物を選んだ者同士でグループを作り、考えを交流し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ人物を選んでいても、根拠や共感するところが違うものなんだな。 自分の意見のキーワードは何だろう。みんなにしっかり伝えられるようにしよう。 	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ根拠を明確にしながら話すよう助言する。 同じ人物を選んでも、根拠や共感できる点などに差異があることも考えられる。その際は、お互いに認め合うことを確認する。 <p>◎積極的に交流できない生徒には、「立論カード」の主張と根拠の部分を中心に述べるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時にスムーズにKJ法に入れるよう、自分の意見のキーワードになると思われる事柄に、線を引かせておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◇自分の経験や知識と関連付けて考えをまとめ、交流して深めている。 (ワークシート・観察)【読】</p> </div>
5 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、グループの意見を集約し、さらにパネルディスカッションの準備を進めていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (6 / 8) 見通し3の②

- (1) ねらい グループの意見を集約し、話し合いを深めるとともに、役割分担などの準備を行う。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑨⑩ 付箋紙 画用紙 ストップウォッチ
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は、役割分担を決めたりグループごとに話し合ったりしながらパネルディスカッションに向けて準備を進めることを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] パネルディスカッションの準備として、グループの意見をまとめよう。		
2 グループの意見を集約し、核になる意見を決める。 話し合いのマニュアルに従い、グループの意見をまとめてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> みんなの意見の良いところを探しながら話し合おう。 グループとして、どんな意見を中心には據えれば説得力が増すかな。 	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 様々な意見を合意形成していくための手段として、KJ法を用いる。 <ul style="list-style-type: none"> ◆話し合い (KJ法) の手順 <ul style="list-style-type: none"> ①キーワードを付箋紙に記入する。 ワークシートを基に、できるだけ多く書く。 ②自分の考えを述べながら、画用紙に貼る。 ③付箋紙をグルーピングする。 ・グループにタイトルをつける。 ・小グループを大グループにまとめる。 ④考え方を集約していく。 ・各グループ間を、ストーリーのようにつなぐ。 前時に線を引いておいたキーワードを基に、効率よく話し合いに入らせる。 グループ全員で話し合い、核になる意見を決めるよう助言する。
3 パネリストを選出し、他のグループからの質問や反論を予想しながら発表内容を整理する。 グループごとに、パネルディスカッションの準備をしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 人物の特徴が一番分かる部分はどこかな。 他の人物を選んだグループの意見を予想すると、質問されそうなことが分かるね。 	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 核になる意見を基に、選んだ登場人物の特徴が分かる内容になるよう、整理させる。 自分たちの意見の問題点も考え、反論を予想したり反論に答える準備をしたりする。 <p>◎積極的に交流できない生徒には、机間支援で声を掛けるとともに、全員が意見を述べられるよう、話し合いのリーダーに助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> パネリスト一人の意見に頼らないよう、発表の方向性が決まったらパネリストを一人選び、グループ内でプレ発表会を行わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">◇自分の経験や知識と関連付けて考えをまとめ、交流して深めている。 (ワークシート・観察) 【読】</div>
4 司会、書記、時計係など、話し合いを進行する係を決める。	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 司会は特に重要な役割なので、教師がフォローに入り、ともに話し合いを進めていくことを伝える。
5 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、実際にパネルディスカッションを行うことを知らせる。

◆時間外の活動として、パネリスト、進行係で事前打ち合わせをする。(事前打ち合わせ用
ワークシート使用)

<ul style="list-style-type: none"> ・パネリストの発表順 ・各グループの主な論点とそれに対する意見 ・フロア全体での討論の仕方

■ 本時の展開（7／8） 見通し③の③

- (1) ねらい パネルディスカッションを行い、自分の考えを深める。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑪ パネルディスカッションに必要な諸道具
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は準備に基づき、実際にパネルディスカッションを行って考えを交流することを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「平家物語」の登場人物について、パネルディスカッションで交流しよう。		
2 パネルディスカッションの注意点を確認する。 有意義な話合いになるよう、自分の役割をもう一度確認しましょう。 ・他のグループの意見もしっかりと聞き、自分の意見と比較できるようにしよう。	7 分	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、単に賛成・反対だけではない様々な考え方方に触れ、その違いをとらえることがパネルディスカッションの特性であることを、再度確認する。 ・パネリストには、結論を先に述べ、他の立場や意見との違いを明確にして発表するよう準備させておく。 ・フロアは、パネリストの意見の要旨や気付いたこと、質問事項などをワークシート（聞き取りカード）に記入しながら聞くように指示する。根拠に注意し、自分の意見と比べながら聞くことで、新たな見方に気付いたり自分の考えを深めたりすることが重要であることを押さえる。
3 パネルディスカッションを行う。 パネルディスカッションの流れ ①テーマの確認とパネリストの紹介 (1分) ②各パネリストからの意見発表 (各2分) ③パネリスト同士の討論 (7分) ④フロアを交えての全体討論 (13分) ⑤各パネリストによるまとめ (各1分) ⑥司会によるまとめ (5分)	38 分	<ul style="list-style-type: none"> ・進行計画の時間配分に沿って、パネルディスカッションを行う。 ・フロアには、積極的な参加を求める。発言する際には、聞き手のことも考え、分かりやすく話す工夫をさせる。特に、誰のどの部分に対しての質問や意見かを明らかにさせる。また、自分と同じグループのパネリストへの賛成（追加・補助）発言をしてもよいことを伝える。 ・多くの生徒が自分の考えを発言できるよう、通常のパネルディスカッションより全体討論の時間を多く設定する。 ・司会は基本的に生徒の役割とするが、「テーマから話題がそれたら元に戻す」「必要に応じて意見を要約する」「論点を整理し話をかみ合わせる」など多くの大切な役割があることから、状況に応じて支援する。 ◎討論に積極的に参加できない生徒には、メモを取らせる際、自分の考えと似ている意見や違った見方などに注目するよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">◇自分の考えとその根拠、反論などを組み合わせて分かりやすく話したり、自分の考えと比較しながら聞いたりしている。（観察・発表）【話・聞】</div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、パネルディスカッションを振り返り、「平家物語」の学習のまとめをしていくことを知らせる。

■ 本時の展開（8／8） 見通し3の④

- (1) ねらい パネルディスカッションを振り返り、討論を通して深まった考えを自分の言葉で表現する。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑫（自己評価カード）⑬
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時はパネルディスカッションを振り返り、深まった自分の考えを文章に書き表すことで「平家物語」の学習のまとめをしていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] パネルディスカッションを通して深まった自分の考えを、文章にまとめよう。		
2 パネルディスカッションでの討論について、各自で自己評価する。 パネルディスカッションはどうでしたか。振り返ってみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ○○さんの意見は、とても共感できるものだったな。 新しい見方に気付かせてくれた意見がたくさんあったな。 平家物語の他の場面も読んでみたいな。 	7 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時のパネルディスカッションについて、「話すこと・聞くこと」と「作品を読み深めること」の2点から自己評価させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「話すこと・聞くこと」について</p> <p>①テーマについて複数の立場があることを理解し、自分の立場で意見や根拠について考えることができた。</p> <p>②自分の考えと比較しながら、他のグループの意見を聞くことができた。</p> <p>③聞き手が分かりやすいように工夫しながら、根拠を明確にして自分の意見を述べることができた。</p> <p>「作品を読み深めること」について</p> <p>①他のグループの意見を聞いて、新たな見方に気付いたり、自分の考えを深めたりすることができた。</p> <p>②平家物語の人々の生き方と自分とを比べながら考えることができた。</p> </div>
3 全員でパネルディスカッションを振り返る。	10 分	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションを行って学んだことや、気付いたことについて発表させる。 自己評価の際に机間支援を行い、意図的な指名ができるようにする。
4 平家物語やその登場人物について、自分の考えをまとめる。 パネルディスカッションを通して、新たな見方や考え方方に気付いたり、自分の考え方を見直したりした人もいることでしょう。それを、400字程度でまとめてみましょう。	25 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時のパネルディスカッションや自己評価カードを基に、気付いた読みの深まりを中心に考えを書くよう指示する。 書く内容が絞り込めない生徒には、自分が選んだ登場人物について、新たに気付いたことを加えながらまとめるよう助言する。 できあがった文章はグループごとに綴じ込み、お互いに鑑賞し合うことを知らせ、文章の構成など読み手の存在にも意識を向かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇現代を生きる自分の知識や経験、思いと重ねながら、作品を通じて考えたことを書いています。 (自己評価カード・ワークシート)【読】</p> </div>
5 教師の話を聞く。	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 古典の楽しさや作品の奥深さを伝え、「平家物語を全編読んでみたい」「他の作品にはどんなものがあるのだろう」といった生徒の興味関心が喚起できるようにする。

単元名	芭蕉とともに「おくのほそ道」を旅する ～「芭蕉道中記」を編集しよう～
単元の目標	俳句に込めた芭蕉の思いを、自分の選んだ形態の文章に表す活動を通して、「おくのほそ道」を読み深めることができる。

■ 本時の展開 (1/7) 見通し1

- (1) ねらい 「おくのほそ道」の背景知識の把握と音読を通して、作品について知るとともに、単元全体の学習についての見通しをもつ。
 (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート① プrezentation資料
 (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 単元のねらいと学習内容を知る。	4分	<ul style="list-style-type: none"> これから「おくのほそ道」という古典作品を読んでいくことと、読み取った芭蕉の思いを文章に表して交流し合うことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 「おくのほそ道」について知っていることを発表させる。

[学習課題] 「おくのほそ道」の背景知識の把握や音読を通して、作品について知ろう。

2 「おくのほそ道」の背景知識について知る。 ワークシートの空欄を埋めながら、「おくのほそ道」という作品について見てきましょう。 ・芭蕉の名前は、知っているな。 ・芭蕉はずいぶん長い旅に出たんだな。旅先で俳句を詠んだのか。	17分	<ul style="list-style-type: none"> 作者である松尾芭蕉については、彼の生涯と著名な俳句の紹介、さらに日本を代表する俳人でもあることなどを押さえる。 「おくのほそ道」という作品については、「紀行文」というジャンルの最高峰の一つと言われていることや、芭蕉が旅先で作った俳句が散りばめられていることなどを押さえる。 全体の内容や芭蕉の旅の行程、また芭蕉という人物についてつかむために、資料集の他に映像資料を用いて生徒の興味を喚起する。
3 単元の目標をつかむ。 テーマ：俳句でたどる 「おくのほそ道」 ～「芭蕉道中記」を 編集しよう～ ・修学旅行記の代わりに、芭蕉の旅行記を書くんだな。 ・芭蕉は、旅先で俳句にどんな思いを始めたんだろう。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の「書くこと」の単元「文章の形態を選んで書こう 修学旅行記を作る」と組み合わせて学習していくことを伝える。 旅先で詠んだ芭蕉の俳句を中心に、その時の芭蕉の思いを考えていくことと、その思いを様々な形態の文章に書き表し、交流し合うという課題とテーマ、作品を読み深める際の目標を提示する。 <p>目標 俳句に込めた芭蕉の思いを基に、「おくのほそ道」を読み深めること。そしてその思いを、様々な形態の文章に書き表すこと。</p>
4 「おくのほそ道」全文を音読する。 文章の特徴を生かしながら、本文（「1門出」「2平泉」）を音読しましょう。 ・「竹取物語」や「平家物語」とはリズムが違うな。 ・頑張って暗唱してみよう。	25分	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた作品とは異なる、芭蕉独特の格調高い文体（漢文調の言い回し、対句的な表現など）に着目させる。 暗唱できる生徒には、積極的に発表させるようにする。 楽しみながら音読・暗唱できるように、読ませ方を工夫する。 <p>①追い読み→②交代読み→③二人読み→ ④グループ読み→⑤たけのこ読み→⑥スピード読み</p> <p>◎滑らかに音読できない生徒には、歴史的仮名遣いとリズムに気を付けるよう助言する。</p> <p>◇文語のきまりや仮名遣いに注意したり、漢文調の文体を生かしたりしながら音読している。 (観察・発表)【言】</p>
5 次時の予告を聞く。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、「1門出」を読み進め、芭蕉の旅に対する思いを考えていくことを知らせる。

■ 本時の展開（2／7） 見通し2の①

(1) ねらい 「1門出」の場面を読み、芭蕉が旅に寄せる心情を理解する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート②

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は「1門出」の場面について内容をとらえ読んでいくとともに、芭蕉が旅に寄せる心情を理解していくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「1門出」の場面から、芭蕉の旅に対する思いをとらえよう。		
2 現代語訳や脚注を参考にしながら、内容をとらえる。 「1門出」の部分を読み、芭蕉にとって「おくのほそ道」の旅がどのような意味をもつのかを考えましょう。 ・芭蕉がどんなにこの旅に出たかったかが伝わるな。 ・芭蕉は、旅の途中で死んでもいいと考えていたのかな。 ・早く旅に出たくてたまらない様子が伝わってくるようだ。 ・自分の家まで人に譲ってしまうなんて、なかなかできることだ。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉にとっての旅のもつ意味や、旅への思いを中心に読み取っていくことを確認する。 ・考えさせたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」に込められた、芭蕉の人生観 芭蕉の「旅」に対する考え方、古人（芭蕉が目標とする、旅に生き旅に死んだ詩人たち）への憧れ ◆旅に出たい気持ち 三つの支度の内容と、出立を心待ちにしている芭蕉の様子 ◆「草の戸も住み替はる代ぞ離の家」の俳句に込められた思い 芭蕉の住まいを表す複数の言葉、家を人に譲る意味、芭蕉のこの旅に対する覚悟 ・自分に引き寄せて考えられるよう、生徒自身がもつ旅のイメージと、芭蕉の旅への思いの共通点や相違点に目を向けさせる。 ・「草の戸も…」の俳句に込められた芭蕉の思いを考えさせる。芭蕉庵の住人が住み替わることを理解し、家を手放し、二度と戻ってくることのない芭蕉の強い決意を押さえる。
3 旅に対する芭蕉の思いについて話し合う。 ・自分が考えていた旅のイメージと、芭蕉の旅はずいぶん違うな。 ・みんなの意見は参考になるな。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉の旅への思いは、現代の旅行観とは大きく異なることを、語句や表現からとらえさせる。 ・自分の考えとその根拠を明確にして話すよう助言する。 ◎イメージできない生徒には、修学旅行を思い出させ、出立前にどのような心境だったかを考えさせる。 ・少人数のグループを編成し、話合いを行いやすい雰囲気を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇芭蕉の旅に対する思いを、自分の考えや体験などと比較しながらとらえている。 (観察・ワークシート)【読】</p> </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、「2平泉」を読み進め、芭蕉が平泉で感じたことを読み取っていくことを知らせる。

■ 本時の展開（3／7）見通し2の②

(1) ねらい 「2平泉」の場面を読み、芭蕉が平泉で感じた思いを理解する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート③

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は「2平泉」の場面について内容をとらえ読んでいくとともに、芭蕉が平泉で感じた思いを理解していくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「2平泉」の場面から、芭蕉の心情をとらえよう。		
2 現代語訳や脚注を参考しながら、内容をとらえる。 「2平泉」の部分を読み、平泉を訪れた芭蕉が、何を見て何を感じたのかを考えましょう。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> この場面は現代語訳が教科書に掲載されていないので、脚注を参考に、家庭学習で現代語訳をまとめさせておく。 芭蕉が藤原三代の栄華と滅亡、源義経の自害、昔をしのばせる光堂の姿などから、何を感じ取ったのかを中心に読み取っていくことを確認する。 考えさせたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆奥州藤原氏の栄華と滅亡 繁栄を誇った藤原氏と、そこからくまわれた義経主従の自害、草原と化した場所で感じた人間の営みのはかなさ、無常観 ◆「春望」の引用と芭蕉の涙 「春望」が書かれた状況と、芭蕉の見ている情景との共通点 ◆芭蕉が光堂で感じた思い 人々の努力によって、草むらとならずすんでいる光堂への感動 無常観や源義経など、既習の「平家物語」の学習を思い出させる。 平泉については、歴史の授業で学んだ知識を確認させたり、世界遺産に登録されていることを知らせたりする。 自分に引き寄せて考えられるよう、芭蕉の行動と自分の行動とを比較する視点をもつよう助言する。 芭蕉作の二句に込められた思いを考えさせる。高館と光堂とで、俳句に詠まれている情景の違いを押さえる。
3 芭蕉が高館と光堂で、それぞれ何を感じたのかについて話し合う。 草むらになってしまった高館と、昔の姿が残っている光堂の違いは何だったんだろう。 ○○さんは、自分と同じ感じ方をしているな。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 高館と光堂で、それぞれ何を見たのかを確認し、その時の心情を話し合わせる。 高館と光堂では、人間の営みに対して相反する感じ方をしていることを押さえる。 自分の考えとその根拠を明確にして話すよう助言する。 ◎考えがもてない生徒には、芭蕉の俳句を思い出させ、俳句に詠まれた情景をヒントにするよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">◇芭蕉のものの見方や考え方をとらえ、それに対する自分の考えをもっている。 (観察・ワークシート)【読】</div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、「おくのほそ道」の行程をたどりながら、他の場所で詠まれた俳句を鑑賞していくことを知らせる。

■ 本時の展開（4／7）見通し2の③

(1) ねらい 「おくのほそ道」の旅の行程をたどりながら、芭蕉の俳句を鑑賞する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート④

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は、教科書の「『おくのほそ道』俳句地図」と資料集を用いながら、芭蕉の旅の行程を確認し、それぞれの土地で詠んだ俳句を鑑賞していくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] 「おくのほそ道」の旅で芭蕉が作った俳句を鑑賞しよう。</p>		
2 教科書や資料集を基に芭蕉の俳句を鑑賞し、俳句に込められた芭蕉の思いを想像する。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げる俳句は、以下の場所のものとする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 千住 日光 那須 白河 立石寺 最上川 象潟 出雲崎 金沢 小松 敦賀 大垣 </div> <ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集の鑑賞文、写真等を手がかりに鑑賞させ、芭蕉が何に心を揺さぶられたのかを考えさせる。 鑑賞のポイント <ul style="list-style-type: none"> ◆芭蕉は何を見たのか ◆芭蕉の感動の中心 <p>前時までの学習を基に、芭蕉にとっての旅のもつ意味や、平泉で感じた無常観などを参考に想像するよう助言する。</p> <p>1学期に学習した「俳句の可能性」を思い出させ、俳句を鑑賞する際には、五感や想像力を働かせることが大切であることを確認する。</p> <p>◎なかなか想像できない生徒には、旅の感動がどんなところにあるか、自分自身の体験を思い出させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇俳句に表れている芭蕉のものの見方や考え方を基に、芭蕉の思いを想像している。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: -10px;"> <p>(ワークシート) 【読】</p> </div>
3 道中記を書く際に取り上げたい俳句を一つ選び、道中記を書くために必要な情報は何かを考える。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ俳句を基に道中記を記していくことを再度確認し、最も心に残った俳句を選ぶよう指示する。 その俳句を選んだ理由を明確にもたせ、それをワークシートに記入させる。 自分が選んだ俳句について、「すでにもっている情報」「これから必要な情報」は何かを考えさせる。 家庭で資料の収集ができる場合は、家庭学習として行ってくるよう指示する。
4 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、本時のワークシートを基に自分が選んだ俳句について調べ学習をしていくことを知らせる。

■ 本時の展開（5／7） 見通し3の①

- (1) ねらい 文章には様々な形態があることを理解し、道中記を書く際に必要な情報を集める。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑤
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は、自分が選んだ俳句を基に道中記を書く際、必要となる情報を集めるなどの準備をしていくことを知らせ、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] 文章の形態にはどんなものがあるかを知り、道中記を書く準備をしよう。</p>		
2 文章には様々な形態があることを確認し、道中記を書く際にふさわしい形態を考える。 教科書を参考に、道中記を書く際にどんな形態の文章が考えられるか見ていきましょう。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P128～「文章の形態を選んで書こう 修学旅行記を作る」を参考に、文章には様々な形態があることを確認する。 修学旅行記の例を読み、同じ内容でも文章の形態によって印象が異なることを押さえる。 旅を題材にした文章としては、紀行文以外に次のような形態が考えられることを押さえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◆説明文・レポート…見学地や調べたことについて具体的に報告したい ◆随筆…旅の体験や全体的な感想を述べたい ◆意見文…旅での出来事から考えたことを訴えたい ◆物語・詩・手紙…旅先での感動を伝えたい ◆新聞・パンフレット…旅全体や名所の面白さを伝えたい </div>
3 自分が文章を書く際に必要な情報を収集する。 前時のワークシートを基に、道中記を書くために必要な情報を集めましょう。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> 俳句に込められた芭蕉の思いを中心に道中記を記すことを確認し、「どんな目的で何を伝えたいか」を明確にもらせる。 前時に考えた「すでにもっている情報」「これから必要な情報」を書いたワークシートを基に考えさせる。 あらかじめ芭蕉や「おくのほそ道」にかかる資料を用意しておき、いつでも見られるようにしておくとともに、現代語訳を用いて、内容について自分なりに考えたり想像したりさせる。 家庭学習で収集してきた資料も用意させ、必要があればグループで見せ合うよう指示する。 <p>◎調べ学習が進まない生徒には、教科書の「『おくのほそ道』俳句地図」と資料集を中心に必要事項をまとめるよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◇必要な情報、不足している情報を分析し、それに基づいて情報を集めている。 (ワークシート・観察)【書】</p> </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、本時の資料を基に、実際に道中記を書いていくことを知らせる。

■ 本時の展開（6／7） 見通し3の②

- (1) ねらい 前時に集めた情報を基に、俳句に込められた芭蕉の思いを表すのにふさわしい形態を選んで「道中記」を書く。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑥ 「道中記」を書くための用紙
- (3) 展開

学習活動予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は、芭蕉の思いを表すのに最もふさわしい文章の形態を選んで、道中記を書いていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 自分が選んだ文章の形態で、「芭蕉道中記」を書こう。		
2 自分が表したい芭蕉の思いに最もふさわしい文章の形態を選ぶ。 俳句に込められた芭蕉の思いを表すのに最もふさわしい形態を選びましょう。	15 分	・好きな形態を選択するのではなく、伝える目的と内容を考えた上で、最もふさわしい形態を選ぶことを伝える。 ・それぞれの形態がもつ特徴を確認し、思いを表現するのに適した形態を選ばせる。 ・文章の形態によって、構成や文体も変わることを押さえ、効果的な表現を工夫するよう伝える。
3 情報を整理し、文章にまとめる。 選んだ文章の形態に合った構成を考え、工夫して文章にまとめましょう。 ・芭蕉の感動が伝わるような文章を書こう。 ・芭蕉になったつもりで書くといいのかな。	30 分	・書いた文章は、「おくのほそ道」の行程に沿って1冊にまとめ、クラスで交流し合うことを伝え、読み手も意識させるようにする。 ・文章の中に、必ず芭蕉の俳句を引用することを確認する。どのような引用の仕方を考えれば芭蕉の思いが伝わるか、しっかり考えさせる。 ・生徒が様々な形態を選択することを考慮し、枠のみを記した用紙を用意し、自由にレイアウトさせる。 ◎書く内容が絞り込めない生徒には、自分が芭蕉だったら何を一番伝えたいかと投げかけ、芭蕉の思いに寄り添わせるようにする。 ◇自分が伝えたい内容を、文章の形態に適した構成や表現を考えながら作品としてまとめている。 (ワークシート・観察) 【書】
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、それぞれの道中記を交流し合い、「おくのほそ道」の学習のまとめをしていくことを知らせる。

■ 本時の展開（7／7） 見通し3の③

- (1) ねらい 書いた道中記を交流し合い、「おくのほそ道」に込められた芭蕉の思いについて自分の考えをまとめること。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑦⑧
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は書いた道中記をお互いに交流し、深まった自分の考えを文章に書き表すことで「おくのほそ道」の学習のまとめをしていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] 書いた道中記を読み合い、改めて芭蕉の思いについて自分の考えをまとめよう。</p>		
2 書いた道中記を読み合い、各自やグループで自己評価する。 みんなの書いた道中記を読み合 い、交流しましょう。	22 分	<ul style="list-style-type: none"> 最初に、自分が書いた道中記について自己評価するよう指示する。 次にグループで読み合い、お互いに評価し合うよう指示する。 評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> ●伝えたい内容にふさわしい文章形態になっているか。 ●文章（紙面）の構成は工夫されているか。 ●文章表現は分かりやすく工夫されているか。 ●俳句に込められた芭蕉の思いが伝わるか。 交流し終わったら、別のグループを編制し、再度読み合う機会を設ける。
3 「おくのほそ道」や芭蕉について、自分の考えをまとめること。 芭蕉の俳句を中心に、「おくのほそ道」という作品を学んできました。学習を振り返り、改めて感じた「おくのほそ道」や芭蕉についての自分の考えを、400字程度でまとめてみましょう。	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達が書いた道中記を読み、新たに気付いたことや考えたことを中心にまとめるよう伝える。 芭蕉がどんな思いで「おくのほそ道」の旅に出たのか、それぞれの土地で俳句にどんな思いを始めたのか、これまでの学習を基に考えさせる。 <p>◎書く内容が絞り込めない生徒には、「1門出」での芭蕉の強い覚悟を思い出させ、「旅=人生」という芭蕉の価値観を基に記述するよう助言する。</p> <p>◇現代を生きる自分の知識や経験、思いと重ねながら、作品を通じて考えたことを書いている。 (自己評価カード・ワークシート)【読】</p>
4 教師の話を聞く。	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉の他の紀行文や俳句を紹介し、古典作品への興味関心を喚起できるようにする。 中学校3年間の古典学習を振り返り、今後も古典に親しもうとする態度の育成に向けた働きかけを工夫する。